

## 令和6年度 認定こども園 やまなみ 自己評価結果報告書

評価項目	取り組み状況
<p><b>教育・保育方針</b> <b>教育及び保育の目標</b> <b>全体計画・指導計画</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラスで取り組んできた「ゆるやかな担当制（WAGAKOプロジェクト）」が4年目を迎え、乳児期の育ちを基本として集団の中で自発的・主体的に自己決定する子どもの主体性を大事にした幼児クラスの教育・保育環境作りについて職員間で話し合い見直しを行った。3歳児クラスは小集団での活動を基本とすることで、保育者がより丁寧な関わりをすることができた。</li> <li>・子どもの実態に即して年間計画に散歩や第2園庭での活動、菜園での栽培活動を落とし込み、園外に出る経験を多くすることで体力作りや地域に対する関心を高められるように努めたが、例年になく気温の高い期間が長く戸外での活動が制限されることも多かった。</li> <li>・活動の様子はホームページや写真、動画の配信で保護者にも伝えることができた。</li> </ul>
<p><b>健康支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「年間保健指導計画」に基づき、園児を対象とした保健指導を継続し、健康安全指導・生活習慣等に関する保育内容の充実を図った。</li> <li>・園医の助言を受けて、熊本県小児科医会と熊本市保育園連盟との連絡会にて協議された意見書の内容に基づき『医師が記入した意見書が望ましい感染症』と『医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が望ましい感染症』に分け、両面印刷して保護者に周知した。</li> <li>・月1回の身体測定、年1回の内科健診(視力スクリーニング)、年1回の歯科検診、尿検査(3,4,5歳児)を実施し、結果票を保護者に渡して必要に応じた受診・治療の確認をした。</li> <li>・保護者には保健便り「げんきっこ」を通じて、保健指導内容や感染症情報、生活習慣等の健康管理・生活管理に関わるタイムリーな情報発信をすることで、家庭での親子の会話を広め、更なる意識の啓発を図った。</li> <li>・保健衛生・安全対策専門リーダーによる歯科指導、手洗い指導を通して「おくちの体操」や「あわあわ手洗い」等子どもたちが楽しみながら習慣付くよう取り組んだ。</li> <li>・アレルギーがある園児については担任による面談を行い、生活管理指導表を年に1回提出してもらった。</li> </ul>
<p><b>安全管理</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校安全計画」を基に、園児への安全指導を行う。毎月1回の避難訓練(火災・地震)の計画の見直しを行い、避難経路や避難する順序について会議で話し合った。</li> <li>・職員の消火訓練の実施、年に1回の不審者対策訓練・交通安全教室、職員対象にAED講習会・エピペン使用法講習会を行い、保護者には動画配信を通して園の取り組みを発信した。また、非常時にも連絡が取れるように一斉メール配信システムへの登録を推奨した。</li> <li>・保育環境の管理に向けて、月初めの安全点検を実施し、全職員で安全管理に努めた。</li> <li>・事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、職員に周知した。</li> <li>・大型駐車場内での徐行運転や降園後は速やかに車を移動させ、園児を駐車場で遊</li> </ul>

	<p>ばせない等、事故防止の注意喚起を保護者に呼びかけることで送迎時の安全につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症警戒アラートが発令される期間については、園庭のミストを使用したり、遊具も高温になるため降園後の園庭遊びを控えるように呼びかけたりして、熱中症対策を行った。また、エアコンを空気清浄機能付きにしたことで保育室内の温度を一定に保ちやすくなった。</li> <li>・事故防止の観点から、保育システムを活用して欠席・遅刻連絡を確実にしてもらうよう保護者に呼びかけ、連絡がない場合は園から確認の電話を入れることを徹底することで定着してきた。</li> </ul>
<p>食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立表及び給食便りを毎月発行した。引き続き、給食食材から卵だけでなく、乳、小麦も完全除去し、魚や大豆・豆腐・豆乳での代替食を提供することで、アレルギーのある園児も同じテーブルで給食が食べられている。</li> <li>・月に1回、食育・アレルギー専門リーダーと給食室チーフとの会議で、各年齢の子どもたちの食事の様子を報告したり、献立表について話し合ったりすることで、職員が食べ物の栄養についての知識を高めることができた。</li> <li>・食育・アレルギー専門リーダーでやまなみの食育の全体計画を立て職員に周知したことで、年齢ごとのねらい・配慮事項を明確にすることができた。</li> <li>・幼児クラスを対象に食育・アレルギー専門リーダーによるエプロンシアター『早寝早起き朝ごはん』『三食食品群』などの食育指導を通して食べることの大切さや食べ物の栄養について学ぶ機会を作った。また、その様子を動画で配信することで保護者にも伝えることができた。</li> <li>・給食室横にその日の献立を写真で掲示することで送迎時の親子の会話にも給食の話題が聞かれるようになった。</li> <li>・幼児は当番活動で給食室の様子を見たり、献立名をクラスに伝えたりすることで給食を楽しみにし、食に対しての意欲を高められるようにした。</li> <li>・第2園庭の菜園での栽培活動(サツマイモ)や給食食材の皮むき体験(トウモロコシ)の様子を写真等で掲示したり、菜園で収穫した物を持ち帰ったりすることで保護者も巻き込んで食について興味・関心が持てるようにした。</li> <li>・子どもの発達に沿って、箸の使用開始時期を4歳児からとしたことを保護者にも周知し家庭と園で連携しながら無理なく取り組めるようにしている。また、園の給食で使用するスプーンについても見直し、保護者にも周知した。</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者支援・子育て支援専門リーダーによる絵本便りの発行、及び絵本室の整備によって毎週金曜日の絵本貸し出しの利用者を増やし、家庭でも親子で読み聞かせの時間を楽しんでもらえるように取り組んだ。</li> <li>・保護者支援・子育て支援専門リーダーによる季節ごとに親子で楽しめる遊びの動画配信を行った。</li> <li>・月に1回のクラス便り「やまなみっこ」の発行、乳児クラスは成長過程の掲示と連絡ノートの記入、幼児クラスは毎日の活動内容をホームページにアップすることで、日々の教育・保育内容を知らせて子どもの成長の喜びを保護者と共有した。</li> <li>・年に2回のクラス懇談会を開催し、懇談会後に親子で運動会ごっこやレクリエー</li> </ul>

	<p>シヨンの時間を設けることで保護者同士の親睦を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートの結果をメール配信し、保護者と職員で共有することができた。</li> <li>・地域の子育て支援事業として、マタニティ広場やお父さん広場、座談会を月に1～2回程度開催した。</li> <li>・子育て支援センターによるベビータイムや育児講座を通して地域交流事業に取り組んだ。</li> </ul>
<p>教育・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラスに導入した「ゆるやかな担当制（WAGAKOプロジェクト）」の成果を実感すると共に幼児クラスの主体性を大切にする保育・教育へのつながりを模索する中で、子どもたちの安心感や満足感をより高め、大人も子どもも見通しを持って園生活が送れるように努めた。</li> <li>・乳児クラスのトイレトレーニングについては、個人に合わせたタイミングで保護者にプリントを渡して丁寧に説明することで、家庭との連携が図りやすく子どもに無理なく進めることができた。</li> <li>・幼児クラスは前期に1回、乳児クラスは後期に1回の保育参観を行い、園での子どもの様子、保育者や友だちとの関わりを見てもらうことができた。</li> <li>・昨年度に引き続き「夏祭りごっこ」を計画、実施した。3、4、5歳児で同じ活動に取り組むことで異年齢交流もでき、のびのびと楽しむ子どもたちの姿が見られた。また、今年度は親子で楽しめる活動も取り入れ、多くの参加者で賑わった。</li> <li>・幼児クラスを対象に運動会を体育館で行い、乳児クラスはホールで懇談会後に親子で運動会ごっこを行い、学年ごとにその様子を配信した。</li> <li>・全学年を2グループに分けてホールで開催した発表会は、保護者が子どもたちの成長を実感する機会になり、日頃の保育・教育の取り組みや意図を伝えることができた。</li> <li>・勤労感謝の日に向けて、日頃お世話になっている地域の方々に向けて感謝の気持ちを届ける活動に取り組むことで、地域交流のきっかけとなった。</li> <li>・幼児クラスを対象にしたサッカー教室や職員による演奏会などを行い、スポーツや音楽に対する興味・関心を高められるようにした。</li> </ul>
<p>保育教諭の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性を深めるための研修に積極的に参加し、研修報告書を全職員で回覧し、保護者にも毎月の研修予定と研修報告を掲示して知らせた。</li> <li>・「人権チェックリスト」及び「自己評価表」の記入と面談を全職員が行うことで、自己の職務の確認に繋がった。</li> <li>・毎月の学年ミーティングを読み合わせやクラス運営の課題解決、環境整備への取り組みに向けての話し合いの機会にして、職員間で共有できるようにした。</li> <li>・全職員を対象とした法人研修会では「主体的な保育とは？」について学びを深め、ハラスメント研修では専門職としての意識を高めることができた。</li> </ul>

◎今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課題	具体的な取り組み方法
<p>保育内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児担当制についての学びを広め、深めつつ、やまなみ独自のWAGAKOプロジェクトの推進を図り、幼児クラスにおいては『子どもの主体性』について考え</li> </ul>

	<p>話し合っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 引き続き職員の振り返りの時間を確保し、評価と反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育・教育を目指す。子どもたちが身近な環境に興味・関心を持って試行錯誤や工夫を重ねていく過程で、職員が子どもの気付きや発想をどのように認め、次につなげていくかを職員間で話し合っていく。</li> <li>• 戸外での活動が制限される暑さの厳しい時期については、室内でも身体を動かす機会を取り入れる工夫など遊びを充実させる。</li> <li>• 地域の小学校との連携を強化し、就学に向けての情報共有に尽力する。特に年長児に対しては小学校への憧れや期待を高め、親子で共有できるように工夫する。</li> </ul>
保護者に向けての 保育・教育内容の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日々の保育の中で大事にしていることやその活動のねらいが、保護者に伝わるように伝え方を動画配信やホームページの利用、保育 ICT の活用などで工夫していく。</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• やまなみの理念を理解し、経験年数の浅い職員でも各々の目標を明確にして達成感を味わえるようにするため、身近に指導・相談役となる職員を配置する。</li> <li>• 保育者同士のコミュニケーションやチームワークが保育の質に大きく影響し、働きやすい職場作りに欠かせないことを全職員が共通理解し、学年ミーティングとして気軽に子どものことや保育のことを話せる場を引き続き作っていき、保育の楽しさややりがいを実感できるようにする。</li> <li>• 保育者自身のスキルアップを図る目的で、必要な資格を取得したり、自ら選んで研修を受講したりする機会を自主的に作っていく。</li> </ul>

以上の通り報告します。

令和7年(2025年)3月31日

やまなみ

園長 山崎 敬太郎